

●土木学会国際貢献賞

このたび、土木学会の国際貢献賞なるものをいただきました。コンサルタントをしていると相手政府から感謝されることはよくありますが、公に賞を受けることは余りないと思っていましたし、加えて学会活動にもそれほど貢献していないので、思いがけない受賞にはいささか戸惑っています。同時にアルメックのような小さな会社で好きな仕事をしてきて、賞につながったあたりに愉快を感じています。

また当日の受賞者をもみても殆どが技術系の方方で、計画系の方は少なく、私が受賞することでこうした分野が知られるのも嬉しく感じました。因みに今年の国際貢献賞は4人で、建設省からJICAの理事やアフリカの大使を経験された泉さん、運輸省からADBをへて現在国際港湾協会事務総長の井上さん、これに中国人の方でした。

ここ数年そろそろ仕事のペースを落とそうかと考えていましたが、現実は今全く逆の方向に流れています。さらに今年から3年間、早稲田大学院で客員教授として24人の学生の面倒を見ることになり、モンゴル交通学会も設立し、副会長としてこの秋の第一回総会を成功させる必要もあります。

ということで、このタイミングに受賞と言うことは、ご苦労さんではなくもっと頑張れというメッセージでしょうか。受賞に関係なく、仕事に対する思いもまだ熱く、やり残していることも多く、いいチームも組めるようになってきているので、新たな気持ちで面白い結果を残せるような仕事をしたいと思っています。

岩田鎮夫

●老舗

大阪の「船場吉兆」がついに廃業に追い込まれました。メディアは吉兆を老舗と報道しますが、創業は1930年で歴史は浅く、「吉兆」という“のれん”名はメディア情報に惑わされているところが多いような気がします。

ところで韓国銀行の調べによると、世界で創業200年以上の企業は5,586社あり、このうち3,146社が日本に集中し、続いてドイツ837社、オランダ222社、フランス196社の順となっています。日本の場合、創業1000年以上の企業は7社あり、世界で長寿のベスト3は日本が独占しています。

そして世界最古の企業は、大阪にある「金剛組」で、これが真の老舗です。6世紀の四天王寺建立以来、連続と続いて現在も活動している寺大工・建築業者です。同社の沿革をみると、聖徳太子の命を受けて、西暦578年に百済から日本に招かれた三人の工匠の一人（金剛重光）がルーツのようです。

<http://www.kongogumi.co.jp/enkaku.html>

金剛組は、経営不振から2006年1月に中堅ゼネコン高松建設の傘下に入り、1428年続いた同族経営に終止符を打ちましたが、このM&Aでは、「伝統」という長年の社寺との関係を守り会社存続の象徴として金剛氏が相談役に就任し、家名を残して再生しています。

このように日本企業が長寿する理由は何か。韓国銀行の分析では『本業重視』『信頼経営』『透徹した職人精神』『血縁を超えた後継者選び』『保守的な企業運営』などを挙げています。

日本の企業は伝統の継続を目的としているから長寿するのであって、企業が金を稼ぐことに専念し始めたら何れ淘汰され長続きしないでしょう。「創業家」には特有の力があり、その歴史に安住しあぐらをかくか、伝統を革新のバネとするか。生かし方次第で会社の未来は大きく変わると思われます。

高尾利文（第二計画部）

●高速バス&レールライド実証実験

今月16日から、高速バスとつくばエクスプレス（TX）の乗り継ぎ実証実験が開

始されます。

これまで茨城方面から東京方面に向かう高速バスは、都内の渋滞により定時性の確保が困難な状況にありますが、今回の取組みは首都高速八潮パーキングエリア（PA、埼玉県八潮市）とTX八潮駅の近接性（徒歩6分程度）に着目し、茨城方面からの高速バス利用者が八潮PAで降車し、TX八潮駅から鉄道に乗り継げるという新たな交通体系の確立を目指すものです。

都内の渋滞情報を高速バス車内でアナウンスし、八潮PAでTXに乗り継ぎを希望する場合は、乗り継ぎ運賃100円でTX八潮駅から秋葉原駅間の各駅で降車することができます（通常、TX八潮駅から秋葉原駅までは450円）。

実験実施期間は、平成20年6月16日から平成21年3月31日まで、常総ルート、水戸ルート、常陸太田・大宮・大子ルート、日立・高萩ルートの4路線が対象です。茨城方面から東京方面へ移動する際は、ぜひ高速バスをご利用されてみてはいかがでしょうか。

実験に関する詳細は、下記ホームページでご覧になれます。

http://www.ktt.mlit.go.jp/jidou_koutu/tab1/jikken/yasiopa.html

大野 学（第一計画部）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2008 ALMEC Corporation. All rights reserved.